



Chie /d.

2023

3

Tokyo Philharmonic Orchestra Season 2023

2023シーズン定期演奏会

東京フィルハーモニー交響楽団



©上野隆文

本日はご来場いただき、まことにありがとうございます  
歴史を紡ぎ未来へと奏でるオーケストラの調べを  
心ゆくまでお楽しみください

東京フィルハーモニー交響楽団

---

オフィシャル・サプライヤー

---

**SONY**

**Rakuten**

**マルハニ**

**LOTTE**

**JP BANK** ゆうちょ銀行

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団は上記の企業から特別なご支援をいただいております。

第153回東京オペラシティ定期シリーズ

3月9日(木)19:00開演 東京オペラシティ コンサートホール

第982回サントリー定期シリーズ

3月10日(金)19:00開演 サントリーホール

第983回オーチャード定期演奏会

3月12日(日)15:00開演 Bunkamura オーチャードホール

3/9

3/10

3/12

指揮：アンドレア・バッティストーニ

オルガン：石丸由佳\*

コンサートマスター：近藤 薫

ベルリオーズ：序曲『ローマの謝肉祭』Op. 9(約10分)

カゼツラ：狂詩曲『イタリア』Op. 11(カゼツラ生誕140年)(約20分)

- I. レント、グラヴェ、トラジコ；コン・モルタ・ファンタジア
- II. レント・アッサイーロンターノ
- III. アレグレット・グラツィオーソ、ポーコ・モツソ
- IV. アレグロ・モルト・ヴィヴァーチェ：フェストーソ、コン・アニモ

－ 休憩 (約15分) －

サン＝サーンス：

交響曲第3番 ハ短調 Op. 78『オルガン付き』\* (約35分)

- I. (第1部) アダージュ・アレグロ・モデラート(第2部) ポーコ・アダージョ
- II. (第1部) アレグロ・モデラート―プレスト(第2部) マエストーゾ―アレグロ

主催：公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(舞台芸術創造活動活性化事業)|

独立行政法人日本芸術文化振興会

協力：Bunkamura (3/12)



※演奏中や曲間・楽章間での退場につきましては、体調に不安がある場合など、無理せずご判断ください。その際、周りのお客様の鑑賞の妨げとならぬよう、ご配慮いただければ幸いです。

※演奏開始間際の入場の際にはスタッフの案内で入場券記載とは異なるお席への着席をお願いすることがございます。

※演奏中のご入場は、かたくお断りいたします。楽章間のご入場については、楽曲の進行により係がご案内いたします。ご入場いただけない場合もございますので、ご了承ください。

※演奏中に、時計やスマートフォンのアラーム音等が鳴らないよう、いま一度ご確認ください。

※演奏は最後の余韻まで余さずお楽しみください。早すぎる拍手や声援は他のお客様の鑑賞の妨げとなる場合がございますので、ご配慮くださいますようお願いいたします。

## 出演者プロフィール



©上野隆文

指揮

アンドレア・バッティストーニ

Andrea Battistoni, conductor

東京フィルハーモニー交響楽団 首席指揮者

1987年ヴェローナ生まれ。国際的に頭角を現している同世代の最も重要な指揮者の一人と評されている。2013年ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場の首席客演指揮者、2016年10月東京フィル首席指揮者に就任。

『ナブッコ』『リゴレット』『蝶々夫人』（二期会）、グランドオペラ共同制作『アイダ』のほか、ローマ三部作、『展覧会の絵』『春の祭典』等数多くの管弦楽プログラムで東京フィルを指揮。東京フィルとのコンサート形式オペラ『トゥーランドット』（2015年）、『イリス（あやめ）』（2016年）、『メフィストフェレ』（2018年）で批評家、聴衆の双方から音楽界を牽引するスターとしての評価を得た。同コンビで日本コロムビア株式会社よりCDのリリースを継続している。

スカラ座、フェニーチェ劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、スウェーデン王立歌劇場、アレーナ・ディ・ヴェローナ、バイエルン国立歌劇場、マリインスキー劇場、サンタ・チェチーリア国立アカデミー管、イスラエル・フィル等世界の主要歌劇場・オーケストラと共演を重ねている。2017年には初の著書『マエストロ・バッティストーニのぼくたちのクラシック音楽』（音楽之友社）を刊行。

2021年、東京フィルとの録音『ドヴォルザーク新世界&伊福部作品』欧米盤が欧州の権威ある賞の一つ「OPUS KLASSIK 2021」交響曲部門（20-21世紀）を受賞した。

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>



©Naoko Nagasawa

オルガン

石丸由佳

Yuka Ishimaru, organ

シャルトル国際オルガンコンクールで優勝、併せてJ.アラン賞受賞。ヨーロッパ10カ国以上の各地、および日本全国でリサイタルを行っている。

東京藝術大学卒業、同大学院修了。デンマーク王立音楽院、ドイツ国立シュトゥットガルト音楽大学修了。両国家演奏家資格取得。

国内の主要オーケストラはもとより、リヨン国立管弦楽団やシュトゥットガルト州立管弦楽団とも共演。

テレビやラジオへの出演も多い。これまでにない企画演出やプログラミングは各所で高い評価を受けており、オルガンの普及、教育プログラムにも尽力している。2020年4月より新潟市民芸術文化会館りゅーとびあ専属オルガニスト。武蔵野音楽大学非常勤講師。ココペリオルガンスタジオ / 教室主宰。

YouTubeチャンネル : <https://www.youtube.com/c/YukaIshimaruorgan>



## 楽曲紹介

解説＝藤田 茂

リュリはイタリア人だった。その事実、われわれは素朴に驚く。なんとなれば、リュリこそは栄華をきわめたブルボン朝に咲きいでたフランス・バロック音楽の王者であり、音楽におけるフランス性の父だと考えられているからだ。実際、リュリはイタリア人だった。それが教えてくれるのは、フランスとイタリアの芸術交流は、かくほどに深いものであるということだ。

本公演で演奏されるのは、フランスのベルリオーズ、イタリアのカゼッラ、そして、フランスのサン＝サーンス。そこに聞こえるのは、この交流の結果であり、また、それ自体の原動力となってきた、広い意味での地中海精神（あるいは、それを受け継いだラテン精神）である。そのシンボルは「輝く太陽」「青い海」「白い雲」。そこに満ち満ちた、すがすがしい空気を胸いっぱい、に吸い込みましょう。さあ、みなさんご一緒に。

### ベルリオーズ

#### 序曲『ローマの謝肉祭』Op. 9

フランスにおけるロマン主義の体現者であったエクトル・ベルリオーズ（1803-1869）。彼は、1830年のローマ賞音楽部門の覇者であった。ローマ賞というのは、絵画・彫刻・建築・音楽の各部門で競われる、ローマ留学特典つき国家芸術賞のことで、これを征したものは、国家の芸術エリートの仲間入りができた。若き芸術家のたまごたちにとって、喉から手が出るほどに欲しい賞であったのも当然だろう。このローマ賞は、まさにリュリの時代に起源をもつ「伝統と格式」の制度だったから、関わった人物たちの権謀術策、賞賛とやっかみ（また、それらの混合）の話には事欠かない。ベルリオーズも「回想録」ではローマ賞のことを悪し様にいいながら、実際には4度もチャレンジし、27歳の年に、ついにこれを獲得したのである。

その褒賞かつ義務としてローマに留学した若きベルリオーズは、そこで実際に目にした「ローマの謝肉祭」に正直、少し引いた。フランス語では「脂肪の日」とも言われる、聖週間前の飲めや歌えやの乱痴気騒ぎは、彼にとっては「何が楽しいの

か全然わからない」ものだったからである。しかしまた、ベルリオーズが、その狂気すれすれの光景に生命力の爆発を見たのも確かである。16世紀のローマを舞台とするオペラ『ベンヴェヌート・チェリーニ』(1838)において、ベルリオーズは「ローマの謝肉祭」の場面をリアルに再現したあと、その素材を活用して、今回演奏される管弦楽のための演奏会用序曲『ローマの謝肉祭』を作曲したのだった。

ベルリオーズ自身が指揮をした1844年2月の初演から、この序曲は熱狂をもって迎えられ、即座にアンコールされたという。以後、序曲『ローマの謝肉祭』はベルリオーズ最大の「ヒット作」となり、現在でも名指揮者たちのバトンのもとで、常に加速し、前進していく圧倒的な音楽の力で、聴くものを魅了しつづけている。

[作曲年代] 1843年 [初演] 1844年2月3日、パリ、サル・エルツにて作曲者自身の指揮による  
[楽器編成] フルート2(2番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2(2番はイングリッシュ・ホルン持ち替え)、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、ホルネット2、トロンボーン3、ティンパニ、打楽器(タンブリン、トライアングル、シンバル)、弦楽5部

## カゼツラ

### 狂詩曲『イタリア』Op. 11

アルフレート・カゼツラ(1883-1947)は、イタリア芸術音楽史において「80年組」と呼ばれる世代に属している。実に彼は、レスピーギやマリピエツロなどともに1880年頃に生まれた一群のイタリア人音楽家のひとりであり、プッチーニの国際的業績を発展的に受け継ぎ、主に器楽の領域でイタリア近代音楽を明け開くという歴史的使命をになった。一般に「80年組」の音楽家たちは、ドビュッシーを中心とするフランス近代音楽の影響、また、リムスキー=コルサコフに代表されるロシア近代音楽の影響を強く受けたが、この影響は、模倣を促すよりも、彼ら独自の音楽を創りだす触媒として働いた。

本公演で演奏される狂詩曲『イタリア』は、その証明ともいえる作品である。作曲時、26歳であったカゼツラはまだパリにいて、フランス楽壇の国際的スターであったドビュッシーを日々、意識せざるをえなかった。しかし、それゆえにこそ、若きカゼツラは、これに精神的な反旗をひるがえし、(当時、「ドビュッシズム」の言葉とともに理解されていた)繊細・洗練の美の逆を行く、大胆かつ直截的な「イタリアの音楽」を、この作品で実現しようとした。

イタリアの国民的音楽を! そう考えたとき、彼が(他の国民主義の音楽家にならって)自国の民謡に素材を求めたことは、よく理解できる。初版の楽譜にカゼツラ自ら記しているように、この狂詩曲『イタリア』では、第1部に4つ、第2部(終結部)に3つのイタリア民謡が用いられている。

そのうち、圧倒的な効果を発揮するのは、あの「フニクリ・フニクラ」である。無論、これにはルイージ・デンツァという作曲家がいたわけで、本来の意味での民謡では全然なかったわけだが、カゼツラはそれを分かったうえで、もやは「国民歌」であったこの曲を、民謡と同等なものとして堂々と利用した。そのようなおおらかさ、また、そのような熱さこそ、イタリア的というにふさわしい。

【作曲年代】1909年 【初演】1910年4月23日、パリ、サル・ガヴオーにて作曲者自身の指揮による

【楽器編成】フルート3(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ3(3番はイングリッシュ・ホルン持ち替え※記譜上は1番だが慣例的に3番が持ち替え)、E♭クラリネット、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット3、コントラファゴット、ホルン4、トランペット4、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(タンブリン、小太鼓、大太鼓、トライアングル、シンバル、鐘、タムタム、グロッケンシュピール)、ハープ2、弦楽5部

## サン＝サーンス

### 交響曲第3番 八短調 Op. 78『オルガン付き』

カミーユ・サン＝サーンス(1835-1921)は、近代フランスの国家的な音楽家であった。国際的な名声をもつ作曲家、ピアニスト、指揮者であり、かつ、「大統領の教会」たるマドレーヌ寺院の正オルガニストを長く務め、また、同時代の音楽創造をサポートする国民音楽協会の共同設立者にして共同代表となったひと。彼の死が国葬をもって追悼されたといえ、いかに生前のサン＝サーンスがフランス楽壇の重鎮であったかが知られるだろう。そのサン＝サーンスの生涯最大の成功作が、オペラ『サムソンとデリラ』、ならびに、『オルガン付き』のニックネームをもつ交響曲第3番であった。

この交響曲第3番が作曲された19世紀後半は、ベートーヴェンを絶対のモデルとしつつ、それを独自に発展させた様々な交響曲が生み出された、いわば交響曲の「第2の黄金期」であった。新しい交響曲が群雄割拠するなか、サン＝サーンスの武器となったのは、やはり「明晰さ」。「明晰でないものはフランス語ではない」



3/9

3/10

3/12

という、明らかに明晰さに欠ける「迷言」がひとびとの口にのぼったのも今は昔、この「明晰さ」とは決してフランスの専売特許ではなかった。「明晰さ」とは、実のところ、ひろく地中海精神の立脚するところのものであり、場合によって「古典的」の言葉とともに理解された精神的態度であった。先にも話題にした「ローマ賞」を制することは叶わなかったサン＝サーンスだが、彼のなかには、複雑な書法のなかにあってもゆるがない、この明晰さの光が確かにあった。

サン＝サーンスの交響曲第3番は、なによりも編成の大きさによって知られている。一般に「3管編成」と呼ばれる大規模なオーケストラにピアノ(4手)、さらにオルガンが加わるのだから相当だ。しかしながら、大音量のなかでも、響きが透明さを失うことはない。ぜひ、この交響曲でもっともパワフルな響きがつくれる、最後の最後の部分に注目してもらいたい。そこから聞こえてくるのは、もっともシンプルな音階、ド・シ・ラ・ソ・ファ・ミ・レ・ドなのである。

全体は2楽章からなるが、これは音楽におけるフランスの古典時代に他ならない、フランス・バロックに特徴的な舞曲の構成を援用したものだろう。それでも、各楽章は2つの部分に分かれるから、結果的には、急・緩・舞曲・急という交響曲の標準構成が実現されることになる。このとき、各楽章の前後を区切る信号の役割を果たしているのがオルガンだというのは、いかにもサン＝サーンスらしい明晰さへの愛だった。実際、そのおかげでわたしたちは、音楽の区切りをはっきりと聞き分けることができるのだから。

サン＝サーンスいわく、「この作品でわたしはすべてを出し切った」交響曲第3番は、まさしく彼の力作であり、明晰さの凱歌であった。わたしたちの心に「輝く太陽」「青い空」「白い雲」が見えるだろうか。

【作曲年代】1886年 【初演】1886年5月19日、ロンドン、セント・ジェームズ・ホールにて作曲家自身の指揮による

【楽器編成】フルート(3番はピッコロ持ち替え)、オーボエ2、イングリッシュ・ホルン、クラリネット2、バスクラリネット、ファゴット2、コントラファゴット、ホルン4、トランペット3、トロンボーン3、チューバ、ティンパニ、打楽器(太鼓、トライアングル、シンバル)、オルガン、4手ピアノ、弦楽5部

ぶじた・しげる／フランス政府給費留学生としてパリ第4大学(ソルボンヌ)に学んだあと、東京芸術大学で博士号を取得。現在、東京音楽大学教授。専門は、近現代のフランス語圏の音楽理論と音楽文化史。メシアン、デュティユー、ブーレーズ等の論考多数。訳書としては、ヒル&シメオネ『伝記オリヴィエ・メシアン』(音楽之友社)。

The 153rd Tokyo Opera City Subscription Concert

**Thu. Mar. 9, 2023, 19:00 at Tokyo Opera City Concert Hall**

The 982nd Suntory Subscription Concert

**Fri. Mar. 10, 2023, 19:00 at Suntory Hall**

The 983rd Orchard Hall Subscription Concert

**Sun. Mar. 12, 2023, 15:00 at Bunkamura Orchard Hall**

Andrea Battistoni, conductor

Yuka Ishimaru, organ

Kaoru Kondo, concertmaster

Hector Berlioz: *Roman Carnival Overture*, Op. 9 (ca. 10 min)

Alfredo Casella:

*Italia*, Rhapsody for Orchestra, Op. 11 (ca. 20 min)

- I. Lento, Grave, Tragico; Con molta fantasia
- II. Lento assai – Lontano
- III. Allegretto grazioso, poco mosso
- IV. Allegro molto vivace. Festoso, con animo

— intermission (ca. 15 min) —

Camille Saint-Saëns:

Symphony No. 3 in C minor, Op. 78 "Organ" (ca. 35 min)

- I. Adagio – Allegro moderato – Poco adagio
- II. Allegro moderato – Presto – Maestoso – Allegro

Presented by Tokyo Philharmonic Orchestra

Subsidized by the Agency for Cultural Affairs Government of Japan |

Japan Arts Council

In Association with **Bunkamura** (Mar. 12)



- Exiting during the performance will be tolerated. If you do not feel well, please exit or enter as you need. However, please mind the other listeners so that they will be minimally disturbed.
- If you enter just before the concert, we may escort you to a seat different from the one to which you were originally assigned.
- Please refrain from using your cellphone or other electronic devices during performance.
- Late admittance will be refused during the live performance.
- Hold applause please. Please cherish the "afterglow" at the end of each piece for a moment before your applause.

# Artist Profile



©Takafumi Ueno

## Andrea Battistoni, conductor

Chief Conductor of  
the Tokyo Philharmonic Orchestra

Born in Verona in 1987, Andrea Battistoni is a rising star with an international reputation as one of the most important conductors of his generation. He was appointed First Guest Conductor at the Teatro Carlo Felice in Genoa in 2013, and Chief Conductor of the Tokyo Philharmonic Orchestra in 2016.

In Tokyo he has proved to be a sensation with his charisma and sensitive musicality, conducting Tokyo Phil in operas such as Nabucco, Rigoletto, Madama Butterfly (Nikikai), and Aida (co-produced grand opera), as well as numerous symphonic works including Roman Trilogy, Pictures at an Exhibition, and Rite of Spring. The concert-style operas he has led - Turandot (2015), Iris (2016), and Mefistofele (2018) have secured his reputation as a leading light with critics and audiences alike. He has been regularly releasing CDs with the Tokyo Phil through Nippon Columbia.

Other noteworthy engagements include: Teatro alla Scala, La Fenice in Venice, Deutsche Oper Berlin, Arena di Verona, Bayerische Staatsoper in Munich, Mariinsky Theater, and world-renowned orchestras such as the Filarmonica della Scala, Accademia di Santa Cecilia, and Israel Philharmonic.

His book, *Non è musica per vecchi* was published by Rizzoli in 2012, and by Ongaku-No-Tomo-Sha in Japan in 2017.

In 2021, Andrea Battistoni, performing with Tokyo Phil, won the OPUS KLASSIK Prize 2021 in the 20th/21st Century symphonic category, one of the most prestigious classical awards in Europe, for their international disc, "Dvorak: Symphony No. 9, 'From the New World' & Works of Akira Ifukube."

Website <http://www.andreabattistoni.it/>

Facebook <https://www.facebook.com/Andrea-Battistoni-159320417463885/>

9  
Mar10  
Mar12  
Mar



©Naoko Nagasawa

## Yuka Ishimaru, organ

Graduated from Tokyo University of Fine Arts and Music, Yuka Ishimaru continued to study at the Royal Danish Academy of Music with the scholarship from the government of Denmark, and further at Staatliche Hochschule für Musik und Darstellende Kunst Stuttgart as a member of Japanese Government Overseas Study Program for Artists. Won the Grand prix and Dane & Polly Bales prize at the 22nd International Organ Competition Grand prix de Chartres. She toured both in Europe and in Japan as well as performed with major orchestras and conductors around the globe. She also actively appears in Japanese television programmes. Yuka Ishimaru is highly acclaimed for her passionate and rich sound, performance technique and dense registration of the instrument. She is teaching at the Musashino Academia Musicae, and from April 2020, she is serving as residential organist at Niigata City Performing Arts Center “RYUTOPIA”.

9  
Mar10  
Mar12  
Mar

# Program Notes

Text by Robert Markow

Hector Berlioz:

*Roman Carnival Overture*, Op. 9

On September 10, 1838, Berlioz saw his first opera, *Benvenuto Cellini*, receive its premiere in Paris. The opera failed miserably, due partly to a faulty libretto, partly to a disastrously ineffective Cellini, partly to the unsympathetic conductor, and partly to an audience expecting a stage spectacle of Meyerbeerian proportions. After three more poorly-attended performances it was dropped and not heard again in France until 1913; even today this magnificent work is rarely presented. The only popular excerpts from this opera are its overture and the additional music written in 1843 to serve as either the Introduction to Act II or as an independent concert work. This music is known today as the *Roman Carnival Overture*. Its first performance as an independent work was given at the Salle Herz in Paris on February 3, 1844, conducted by the composer.

The frenetic bustle of Carnival season (just before Lent, a period of about six weeks in the Christian liturgical calendar leading up to Easter) has been depicted on numerous occasions in music. The best-known expressions in orchestral terms are probably Tchaikovsky's *Capriccio italien*, Dvořák's *Carnival Overture* and Berlioz' *Roman Carnival Overture*. Much of the musical substance derives from the opera itself, especially from the Carnival scene, portrayed by the joyous, exhilarating *saltarello* theme. The long, expressive English horn solo, which occurs just after the brief introductory flourish, is one of the most famous in the repertory for that instrument. The melody comes from the first-act duet between Cellini and Teresa, and later becomes the subject of a *fugato* section. This leads into the *Allegro*, the famous *saltarello* (an Italian dance whose rhythm is characterized by rapidly pulsing triplets grouped into pairs). The impetuous verve, orchestral brilliance, and rhythmic energy of this music combine to make the *Roman Carnival Overture* one of the most famous and enduring works in the entire repertory.

9  
Mar

10  
Mar

12  
Mar

**HECTOR BERLIOZ:** Born in La Côte-Saint-André, near Grenoble, December 11, 1803; died in Paris, March 8, 1869

**Work composed:** 1843 **World premiere:** February 3, 1844 in Paris at the Salle Herz, conducted by the composer

**Instrumentation:** 2 flutes (2nd doubling on piccolo), 2 oboes (2nd doubling on English horn), 2 clarinets, 2 bassoons, 4 horns, 2 trumpets, 2 cornets, 3 trombones, timpani, percussion (tambourine, triangle, cymbals), strings

## Alfredo Casella: *Italia*, Rhapsody for Orchestra, Op. 11

Italy has long been a rich source of inspiration for composers: Mendelssohn's *Italian* Symphony, Strauss's *Aus Italien*, Tchaikovsky's *Capriccio italien*, Berlioz' *Harold in Italy*, and Wolf's *Italian Serenade*, just for starters. Casella's twenty-minute rhapsody *Italia* too belongs in this company.

Casella came from a family of cellists. His grandfather (a friend of Paganini), his father, and his two brothers were all cellists; his mother was a pianist. In 1896, at the age of thirteen, he went to Paris to continue his training at the Conservatoire, where he studied composition with Fauré alongside other students including Enescu and Ravel. In Paris he also met Debussy, Stravinsky, and de Falla, and had passing acquaintance with Mahler and Strauss as well. All of these to some extent had an effect on Casella's music. He was an avid promoter of modern music, and had a distinguished career as a teacher, concert pianist, and conductor as well. In 1921 he made an American tour, leading the orchestras of Philadelphia, Cincinnati, Detroit, Chicago and other major cities. From 1927 to 1929 he was conductor of the Boston Pops, immediately preceding Arthur Fiedler's long reign at the post.

*Italia* was only Casella's second orchestral work, following a symphony (Op. 5, 1905-06). Nevertheless, Mahler thought highly enough of it that he persuaded the prestigious firm of Universal in Vienna to publish the score. In 1941, Casella wrote in his memoir, *Music in My*



*Time*, “. . . I began two important orchestral works in which I intended to face for the first time the problem of creating a style at once Italian in spirit and contemporary in its sonorous language. One of these was the Suite in C major...The other was a much greater undertaking and still resists the weight of the years; it is the rhapsody *Italia*.”

Bearing in mind that Casella had been living outside his native Italy from a young age, “it was quite difficult,” he wrote, “to create the style [I] imagined and sought to realize in that work in the environment in which [I] lived.” What gave Casella particular satisfaction was that despite “living in the midst of a musical culture overwhelmingly dominated by Impressionism, [*Italia*] turned out to be anti-Impressionistic. Nothing is more remote from Debussyism than this linear and monumental architecture.” As for the use of Italian folk songs, Casella asserted that “it was natural that when I wished to create a national music I should look for a basis in the national folklore. Many others still do this today, with less ingenuousness than mine.”

The four connected sections, each four-to-seven minutes in length, are easily identifiable. The second begins with a long solo for the English horn in a quiet pastoral setting. The third, introduced by the solo bassoon to harp accompaniment, projects a jaunty tone, and the fourth features one of the best-known Italian songs, “Funiculì, Funiculà.” The song was so ubiquitous that many people assumed it belonged to antiquity. Not so. It was written by a contemporary of Casella, Luigi Denza (1846-1922). When Strauss incorporated the tune into his *Aus Italien* in 1886 he was apparently unaware that it was under copyright, and was sued by Denza for royalties. Rimsky-Korsakov made the same assumption in his orchestral arrangement entitled *Neapolitan Song* (Op. 63). In Casella’s case, however, Denza liked Casella’s treatment so much that he waived copyright fees. Critic Phillip Scott called the music “nothing less than a monumental celebratory fantasia on the tune, bringing to the final section of *Italia* an almost orgiastic impact.”

Casella conducted the premiere on April 23, 1910 in the Salle Gaveau in Paris. Italy waited until 1924 to hear the work.

**ALFREDO CASELLA:** Born in Turin, July 25, 1883; died in Rome, March 5, 1947

**Work composed:** 1909 **World premiere:** April 23, 1910 in Paris at the Salle Gaveau, conducted by the composer

**Instrumentation:** 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 3 oboes (3rd doubling on English horn: 1st on score, but customarily 3rd), E♭ clarinet, 2 clarinets, bass clarinet, 3 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 4 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (tambourine, snare drum, bass drum, triangle, cymbals, bell, tam-tam, glockenspiel), 2 harps, strings

## Camille Saint-Saëns: Symphony No. 3 in C minor, Op. 78 "Organ"

For grandeur, majesty and sheer tonal opulence, few symphonies can stand beside the Third of Saint-Saëns. The prominent contribution from the organ, the “King of Instruments,” provides an additional measure of imposing sonority to the work. Yet, there is little in Saint-Saëns’ other music to prepare us for this symphony’s monumentality and its undisguised attempts to “wow” the audience. Saint-Saëns generally conformed to the stylistic traits of much French music – charm, elegance, restraint, plus the transparent scoring, clean outlines and consummate craftsmanship of a basically classical orientation. The *Organ* Symphony has all of this, but it has more as well – much more. Michael Steinberg has dubbed Saint-Saëns the “master of the immense and effortless *fortissimo*.”

The Third Symphony was written in early 1886 as the result of a commission from the Royal Philharmonic Society of London. The first performance took place in St. James’s Hall in London on May 19 of that year. It was a gala event of course, with the Prince and Princess of Wales (Edward VII and Queen Alexandra) in attendance. Saint-Saëns conducted his symphony after having already appeared as soloist in Beethoven’s Fourth Piano Concerto in the same concert. The public loved the symphony, and critical reception was generally favorable, though some critics grumbled about its unorthodox design.

The entire symphony is based on the principle of continual transformation of a “motto” theme. This theme makes its first full appearance in the restless series of short detached notes in the violins, following the slow, mysterious introduction. The attentive ear will pick out this theme in its rhythmic and coloristic metamorphoses throughout the symphony – at varying times flowing and lyrical, detached and fragmented, broad and noble, or agitated and restless. The melodic line is also sometimes altered as well.

Although ostensibly in two large parts, the work conforms basically to a standard four-movement symphony. The first movement contains a contrasting second theme – a gently swaying line in the violins which serves as a contrast to the first – but it is the first theme (the “motto”) that is mostly developed. The *Adagio* movement is ushered in by soft pedal points in the organ, and unfolds leisurely in a mood of elevated and lofty contemplation. After a full, extended pause comes the agitated scherzo-like movement, one of extraordinary energy and drive. Into its nervous principal theme are worked fragments of original “motto” material (lightning flashes of woodwinds). The most exultant moments are reserved for the concluding section, announced by an enormous C-major chord from the organ. Sonic thrills pile up to ever greater heights, and the symphony ends in a magnificent blaze of C major.

**CAMILLE SAINT-SAËNS:** Born in Paris, October 9, 1835; died in Algiers, December 16, 1921

**Work composed:** 1886 **World premiere:** May 19, 1886 in London at St. James's Hall, conducted by the composer

**Instrumentation:** 3 flutes (3rd doubling on piccolo), 2 oboes, English horn, 2 clarinets, bass clarinet, 2 bassoons, contrabassoon, 4 horns, 3 trumpets, 3 trombones, tuba, timpani, percussion (bass drum, triangle, cymbals), piano (four hands), organ, strings

Formerly a horn player in the Montreal Symphony, **Robert Markow** now writes program notes for orchestras as well as for numerous other musical organizations in North America and Asia. He taught at Montreal's McGill University for many years, has led music tours to several countries, and writes for numerous leading classical music journals.

## 2023 season Subscription Concerts Lineup

*"Alongside its overwhelming plethora of culturing offerings, the Japanese capital is host to several orchestras, the most prestigious among them being the Tokyo Philharmonic. This season combines venerable elder musicians with fiery young soloists and conductors"* -- Bachtrack

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary of Japan's first symphony orchestra. Join us for the ultimate concert experience! Single tickets for concerts in May are now available.

### Release dates for single tickets (from June to November)

|                                               |                                          |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------|
| TOP PRIORITY<br>[PATRON・SUBSCRIPTION MEMBERS] | Apr 8, 2023, Sat                         |
| PRIORITY [Tokyo Phil Friends]                 | Apr 15, 2023, Sat                        |
| WEB PRIORITY [Tokyo Phil Web Ticket Service]  | Apr 15, 2023, Sat<br>～ Apr 24, 2023, Mon |
| GENERAL PUBLIC                                | Apr 25, 2023, Tue                        |

## May

**conductor: Mikhail Pletnev**, special guest conductor

Wed, May 10, 19:00  
at Suntory Hall

Fri, May 12, 19:00  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, May 14, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

Rachmaninov:  
*The Rock*  
*Isle of the Dead*  
Symphonic Dances  
<The 150th anniversary of Rachmaninov's birth>

Single tickets available

## June

**conductor: Tadaaki Otaka**, conductor laureate **piano: Masaya Kamei**

Fri, Jun 23, 19:00  
at Tokyo Opera City Concert Hall

Sun, Jun 25, 15:00  
at Bunkamura Orchard Hall

Tue, Jun 27, 19:00  
at Suntory Hall

Atsutada Otaka:  
IMAGE for orchestra  
Rachmaninov:  
Piano Concerto No. 2  
Rachmaninov:  
Symphony No. 1  
<The 150th anniversary of Rachmaninov's birth>

Single tickets will be available from April and on

## July

**conductor: Myung-Whun Chung**, honorary music director

Sun, July 23, 15:00

at Bunkamura Orchard Hall

Thu, July 27, 19:00

at Tokyo Opera City Concert Hall

Mon, July 31, 19:00

at Suntory Hall

Verdi:

opera *Otello* in concert style

Libretto by Arrigo Boito (in Italian),  
after Shakespeare.

**Gregory Kunde, Otello**

**Atsuko Kobayashi, Desdemona**

**Dalibor Jeniš, Iago**

**Hajime Aizawa, Lodovico**

**TBD, Cassio**

**Ikuko Nakajima, Emilia**

**Toshiaki Murakami, Roderigo**

**Takashi Aoyama, Montano**

**New National Theatre Chorus**

Single tickets will be available from April and on

## October

**conductor: Chloé Dufresne** violin: **Lina Nakano**

Wed, Oct 18, 19:00

at Tokyo Opera City Concert Hall

Thu, Oct 19, 19:00

at Suntory Hall

Sun, Oct 22, 15:00

at Bunkamura Orchard Hall

Lili Boulanger:

Of a Spring Morning <The 130th anniversary  
of Lili Boulanger's birth>

Saint-Saëns:

Violin concerto No. 3

Berlioz:

Symphonie fantastique

Single tickets will be available from April and on

## November

**conductor: Andrea Battistoni**, chief conductor cello: **Haruma Sato**

Fri, Nov 10, 19:00

at Suntory Hall

Sun, Nov 12, 15:00

at Bunkamura Orchard Hall

Thu, Nov 16, 19:00

at Tokyo Opera City Concert Hall

Tchaikovsky:

The Tempest

Variations on a Rococo Theme

Hamlet

Romeo and Juliet Fantasy Overture

<The 130th anniversary of Tchaikovsky's death>

Single tickets will be available from April and on

### Inquiries about tickets.

Tokyo Phil Ticket Service tel: 03-5353-9522

(weekdays 10:00-18:00, closed on weekends and holidays)

Tokyo Phil WEB Ticket Service <https://www.tpo.or.jp/en/>



## Infection Control at Tokyo Phil

In our concerts, we assign top priority to the safety and health of all those involved, including the audience, the performers, and the staff members. From rehearsal to performance, we have been taking measures on stage, backstage, in dressing rooms, and in audience lobbies in accordance with the guidelines for the prevention of the spread of new coronaviruses published by the government of Japan, the Tokyo Metropolitan Government, and other related organizations.



We request that our audience disinfect their hands before entering the venue and maintain social distance with each other in lining up.



The audience's temperature is checked with non-contact thermometer and so on.

Photo by K. Miura / Takafumi Ueno



**Face Masks  
Required**



**Physical  
Distancing**



**Sanitizing  
Stations**



**Frequent Cleaning  
and Disinfecting**



**Improved Indoor  
Ventilation**

Please wear a mask at all times in the hall.

Please refrain from talking in the lobby or in the auditorium.

Please keep ample distance between audience members in the lobby.

Please disinfect your hands frequently.

Our staff will disinfect and wipe down the venue.

Adequate ventilation is provided in the auditorium.

Thank you for your cooperation!

## 東京フィルだより — 2023年シーズン今後の定期演奏会

### 5月の定期演奏会

第984回サントリー定期シリーズ

5月10日(水)19:00 サントリーホール

第154回東京オペラシティ定期シリーズ

5月12日(金)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第985回オーチャード定期演奏会

5月14日(日)15:00 Bunkamura オーチャードホール

指揮：ミハイル・プレトニョフ (特別客演指揮者)

ラフマニノフ／幻想曲『岩』

ラフマニノフ／交響詩『死の島』

ラフマニノフ／交響的舞曲

(ラフマニノフ生誕150年)



ミハイル・プレトニョフ

©K. Miura



5月定期  
聴きどころ

### 6月の定期演奏会 (1回券は4月発売)

第155回東京オペラシティ定期シリーズ

6月23日(金)19:00 東京オペラシティ コンサートホール

第986回オーチャード定期演奏会

6月25日(日)15:00 Bunkamura オーチャードホール

第987回サントリー定期シリーズ

6月27日(火)19:00 サントリーホール

指揮：尾高忠明 (桂冠指揮者)

ピアノ：亀井聖矢\*

(2022年ロン＝ティボー国際音楽コンクール優勝)

尾高惇忠／オーケストラのための『イマージュ』

ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番\*

ラフマニノフ／交響曲第1番

(ラフマニノフ生誕150年)



尾高忠明

©上野隆文



亀井聖矢

©平館平

【料金】1回券 SS¥15,000 S¥10,000 A¥8,500 B¥7,000 C¥5,500

※東京フィルフレンズ(年会費無料・随時入会受付中)入会で、定価の10%割引で購入いただけます(SS席を除く)。

お申込み・お問合せは  
東京フィルチケット  
サービスまで

03-5353-9522 (10時～18時／発売日を除く土日祝休)  
<https://www.tpo.or.jp/> (24時間受付・座席選択可)





## セルゲイ・ラフマニノフとミハイル・プレトニョフ

戦争や革命は、多くの人の運命を変えてしまう。今年生誕150年を迎えるセルゲイ・ラフマニノフ(1873-1943)も、ロシア革命によって祖国を離れた音楽家の一人だった。1917年12月、家族を伴って国外への演奏旅行に出て以来、再びロシアの土を踏むことなく生涯を終えている。

ラフマニノフと同様に、指揮者でピアニスト、そして作曲家でもあるミハイル・プレトニョフも、そうした政治的な圧力と決して無関係とは思えない。現在スイスに住むロシア人マエストロは、ロシアがウクライナに侵攻した昨年の秋、スロヴァキアで「ラフマニノフ国際管弦楽団」を立ち上げた。祖国を愛しながらも、そこを離れざるを得なかった芸術家の名前を冠し、「音楽という普遍的な言語を通じ、平和を鼓舞する」というコンセプトを掲げたオーケストラだ。

そのプレトニョフが、5月の東京フィル定期公演でラフマニノフ作品を指揮する。この作曲家の生涯をたどるように、3曲の管弦楽曲で構成された、オール・ラフマニノフ・プログラムである。最初期に書かれた幻想曲『岩』、円熟期の交響詩『死の島』、そして最晩年の『交響的舞曲』だ。

プレトニョフは、まるで自分がピアノを弾いているかのように、オーケストラに明確な音色を与えている。ラフマニノフ作品ならではの色彩が渦まく世界が鮮やかに広がることだろう。さらに、それぞれの時代での作風の違いも浮き立たせてくれるはずだ。



©K.Miura

## ラフマニノフの生涯 若き日の挫折と再起

ラフマニノフが生まれたのは、今から150年前の1873年4月1日。モスクワ音楽院のピアノ科と作曲科で学んだ。音楽院卒業の翌年、1883年に幻想曲『岩』（作品7）を作曲している。チェーホフの短編小説「旅中」、およびその小説のエピグラフとして出てくるレールモントフの詩にインスピレーションを受けて書かれた。タイトルの『岩』は、小説のなかの男女の別れ、去って行く女を見送る男に雪が降り積もり、それは岩のようになったという描写に由来しているという。



作家アントン・チェーホフ  
(1860-1904)。ラフマニノフとも親交があった

水彩のように爽やかに重ねられていく色彩が魅力的な作品だ。中間部の舞曲的な速い部分、そしてチャイコフスキーの影響を思わせる悲劇的なクライマックス。後年の濃厚な音色とは一味違う若々しいスタイルがよく現れている。

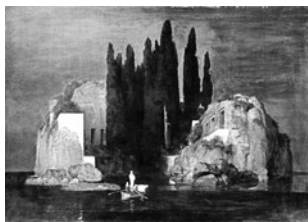
『岩』の作曲より1年後、若き作曲家は交響曲第1番を作曲。交響曲というフォルムを強く意識しながらも、マーラーのようなとりとめ無さも備えたその作品は、その未熟さと新しさゆえに、手痛い批評に曝された。作曲家は意気消沈し、人生最大のスランプに突入してしまう。曲が書けなくなり、アルコール中毒になって震えが止まらず、ピアニストとしての活動も一時できなくなった（その代わりに指揮活動を行うようになった）。

彼が立ち直ったのは、1901年に完成したピアノ協奏曲第2番の成功だった。続いて書かれた交響曲第2番は、前作の失敗を克服し、息の長い美しい旋律を前面に出し、オーケストレーションも巧みさを増した。1908年の初演は、聴衆からは熱狂的に迎えられたという。

## 『死の島』と亡命

その翌年、1909年春に書かれたのが、交響詩『死の島』（作品29）だ。スイスの画家ベックリンの同名の絵画（を元にしたモノクロの銅版画）に着想を得て書かれている。

当時のラフマニノフは、ボリショイ劇場などで指揮活動に迫られ、作曲のためのまとまった時間が取れないほどだった。彼は作曲に専念し、同時にロシアの政情不安を避けるため、ドイツのドレスデンに移住。その地で、交響曲第2番やこの交響詩の傑作が生まれている。



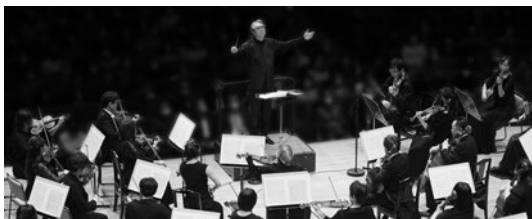
『死の島』はアルノルト・ベックリンの同名の絵画を元にした銅版画から着想を得て書かれた

『死の島』とは、墓場の島。ベックリンの絵では、糸杉(これも死の象徴)がそびえ立つ孤島に、小さな船が近づいていく様子が描かれている。曲も暗鬱そのものに開始。波打つようなリズムのなか、暗い色彩が深みを増していく。そんな闇がかった雰囲気ながらも、巨大編成のオーケストラが細やかに動き、繊細な表情や音色を煌めかせ

る。詩的情緒を香り立たせる。最後は「怒りの日」の旋律が、厳かに顔を覗かせる。

作曲家が故国と別れを告げたのは、『死の島』から8年後だった。それ以降、ヨーロッパやアメリカに移住してからのラフマニノフの作品はぐっと少なくなる。売れっ子ピアニストとして多忙を極めたのに加え、ロシアを離れて創作意欲も減退したのだという。この亡くなるまで26年間の期間に書いた管弦楽を用いた作品は、たった4曲のみ。交響曲第3番、ピアノ協奏曲第4番、『バガニーニの主題による狂詩曲』、そして最後の作品となった『交響的舞曲』(作品45)だ。

『交響的舞曲』は1940年に作曲、翌年初演。3楽章構成の交響曲に準じたスタイルをもつ。舞曲という名の通り、さまざまな舞曲が主題となり、多彩なリズムと色彩にあふれる作品だ。生と死の鮮やかなコントラストと、その葛藤がエネルギーを生み、そして燃え尽きるような浄化に至る。『死の島』などで聴かれた厚塗りのオーケストレーションではなく、削ぎ落とされたソリッドな音楽だ。晩年になって肩肘張らない、より自由な境地に至ったせいだろうか。作曲家のトレードマークである「怒りの日」の旋律も頻繁に登場、それが舞曲と絡み合う。自作の引用も散りばめ、これまで



©TakafumiUeno

での人生を軽やかに振り返るようにも聴こえる。

この最後の作品を書いた3年後、1943年3月28日に彼は亡くなった。70歳の誕生日を目前に控えていた。

鈴木淳史(すすきあつふみ)／1970年山形県寒河江市生まれ。クラシック音楽にまつわるエッセイや批評を手がける。著書に『クラシック悪魔の辞典』『背徳のクラシックガイド』『愛と妄想のクラシック』『占いの力』(以上、洋泉社)『チラシで楽しむクラシック』(双葉社)『クラシック音楽 異端審問』(アルファベータ)『クラシックは斜めに聴け!』(青弓社)ほか。共著に『村上春樹の100曲』(立東舎)などがある。

## 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業」 「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」巡回公演より

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。令和4(2022)年度は「文化芸術による子供育成推進事業」「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」の2つの事業で巡回公演を行いました。

### ●文化芸術による子供育成推進事業

東京フィルは2022(令和4)年度より中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受け、今年度は5月から12月にかけて小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しました。

文化芸術による子供育成推進事業：我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。

### ●子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業

東京フィルは2022(令和4)年9月から1月にかけて13校を訪問しオーケストラ公演を開催しました。

子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業：新型コロナウイルス感染症の影響により、子供たちへ文化芸術の鑑賞・体験をさせる機会が失われてきましたが、その機会を再興するため、小学校・中学校・高等学校等において、文化芸術団体のプログラムを提供し公演を実施するほか、小学校・中学校・高等学校等が希望する文化芸術団体等との鑑賞・体験教室を開催する場合の支援を目的とします。

### 訪問校一覧(都道府県別)

| B 区分 |                                          |
|------|------------------------------------------|
| 島根県  | 奥出雲町内小中学校(奥出雲町立体育館)、吉賀町立柿木中学校(吉賀町民柿木体育館) |
| 広島県  | 海田町立海田中学校、広島市立五日市中央小学校、世羅町立世羅中学校         |
| 山口県  | 柳井市立柳井小学校                                |
| C 区分 |                                          |
| 福岡県  | 八女市立八幡小学校                                |
| 熊本県  | 天草市立栖本小学校、苓北町立坂瀬川小学校、熊本市立田底小学校           |
| 大分県  | 九重町立飯田小学校                                |
| 宮崎県  | 串間市立大束小学校                                |
| 鹿児島県 | 曽於市立月野小学校                                |

### 訪問校一覧(都道府県別)

|      |                                        |
|------|----------------------------------------|
| 埼玉県  | 日高市立武蔵台小学校                             |
| 千葉県  | 船橋市立高郷小学校                              |
| 東京都  | 東京都立松原高等学校(定時制)、小平市立小平第八小学校、東大和市立第九小学校 |
| 神奈川県 | 横浜市立伊勢山小学校、茅ヶ崎市立汐見台小学校                 |
| 長野県  | 松本市立源池小学校                              |
| 静岡県  | 東伊豆町立熱川小学校                             |
| 三重県  | 三重県立稲葉特別支援学校                           |
| 愛媛県  | 松山市立新玉小学校、松山市立東中学校、松山市立雄郡小学校           |

## 2023シーズン 今後の定期演奏会

新しい年を迎え、東京フィルの2023シーズンがいよいよ始まりました。今季も名匠と俊英のタクトのもと、若く才能あふれるソリストたちとの協演をお届けしてまいります。

“オペラの東京フィル”が誇る《オペラ演奏会形式》上演は、名誉音楽監督チョン・ミョンフンによるヴェルディの傑作『オテロ』（7月定期演奏会）。7月定期を含む下半期の1回券は4月発売。他にも要注目の演目が盛りだくさんです。お聴き逃しなく！

### 6・7・10・11月定期の1回券発売スケジュール

|                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 最優先（賛助会員・定期会員様）               | 4月8日（土）10:00～ ※お電話のみ        |
| 優先（東京フィルフレンズ会員様）              | 4月15日（土）10:00～ ※お電話のみ       |
| WEB優先（インターネットから<br>どなたでも1割引き） | 4月15日（土）10:00～4月24日（月）23:59 |
| 一般                            | 4月25日（火）10:00～              |

**5月** 指揮: ミハイル・プレトニョフ  
(特別客演指揮者)  
第984回 5月10日(水) 19:00  
サントリーホール  
第154回 5月12日(金) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール  
第985回 5月14日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール

ラフマニノフ／幻想曲『岩』  
ラフマニノフ／交響詩『死の島』  
ラフマニノフ／交響的舞曲  
(ラフマニノフ生誕150年)

1回券発売中

**6月** 指揮: 尾高忠明 (桂冠指揮者)  
ピアノ: 亀井聖矢\*  
(2022年ロニーティボー国際音楽コンクールピアノ部門優勝)  
第155回 6月23日(金) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール  
第986回 6月25日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール  
第987回 6月27日(火) 19:00  
サントリーホール

尾高惇忠／オーケストラのための『イマージュ』  
ラフマニノフ／ピアノ協奏曲第2番\*  
ラフマニノフ／交響曲第1番  
(ラフマニノフ生誕150年)

1回券4月発売

7  
月

指揮: チョン・ミョンフン

(名誉音楽監督)

第988回 7月23日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール第156回 7月27日(木) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール第989回 7月31日(月) 19:00  
サントリーホール

ヴェルディ/歌劇『オテロ』

◆ オペラ演奏会形式 ◆

オテロ: グレゴリー・クンデ  
デズデーモナ: 小林厚子  
イアーゴ: ダリボール・イエニス  
ロドヴィーコ: 相沢 創  
カッシオ: 調整中  
エミーリア: 中島郁子  
ロデリーゴ: 村上敏明  
モンターノ: 青山 貴  
合唱: 新国立劇場合唱団

1回券 4月発売

10  
月

指揮: クロエ・デュフレヌ

(2021年プザンソン国際指揮者コンクール聴衆  
賞、オーケストラ賞)

ヴァイオリン: 中野りな\*

(2022年仙台国際音楽コンクール優勝)

第157回 10月18日(水) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール第990回 10月19日(木) 19:00  
サントリーホール第991回 10月22日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール

リリ・ブーランジェ/春の朝に

(リリ・ブーランジェ生誕130年)

サン=サーンス/ヴァイオリン協奏曲第3番\*  
ベルリオーズ/幻想交響曲

1回券 4月発売

11  
月

指揮: アンドレア・バッティストーニ

(首席指揮者)

チェロ: 佐藤晴真\*

(2019年ARDミュンヘン国際音楽コンクール優勝)

第992回 11月10日(金) 19:00  
サントリーホール第993回 11月12日(日) 15:00  
Bunkamuraオーチャードホール第158回 11月16日(木) 19:00  
東京オペラシティ コンサートホール

チャイコフスキー/幻想曲『テンペスト』

チャイコフスキー/

ロココの主題による変奏曲\*

チャイコフスキー/幻想序曲『ハムレット』

チャイコフスキー/

幻想序曲『ロメオとジュリエット』

(チャイコフスキー没後130年)

1回券 4月発売

| お問い合わせ 東京フィルチケットサービス

Tel 03-5353-9522 (平日10時~18時・土日祝日休/  
発売日の土日祝は10時~16時)URL [www.tpo.or.jp/](http://www.tpo.or.jp/) (24時間受付・座席選択可)

詳細は





## 午後のコンサート。2023シーズンのラインナップ／1回券発売について

大人気シリーズ「午後のコンサート。」2023シーズンの開幕が近づいてまいりました。オーケストラの名曲と音楽家のお話とおきのお話で楽しむ午後のひととき。今年もぜひ、東京フィルの午後のコンサートをお楽しみください。ただ今、シーズン4回セット券好評発売中。3月より4月・5月・6月公演の1回券を販売いたします。皆様のご来場をお待ちしております。

### 渋谷の午後のコンサート 会場:Bunkamuraオーチャードホール 開演14:00

5月7日(日)

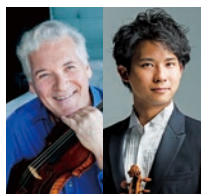
第17回

指揮とヴィオラとお話:

ピンカス・  
ズーカーマン

ヴァイオリン:  
三浦文彰

1回券  
3月発売



©Cheryl Mazak

©Yuji Hori

7月9日(日)

第18回

指揮とお話:

小林研一郎

ヴァイオリン:  
服部百音

※7月6日「平日の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫一

©Yuji Inagaki

9月18日(月・祝)

第19回

指揮とお話:

角田鋼亮

ゲスト(ピアノ):  
園田隆一郎、  
三ツ橋敬子



©Hikaru Hoshi

©Earl Ross

11月5日(日)

第20回

指揮とお話:

円光寺雅彦

ピアノ:  
清塚信也

※11月6日「平日の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦興一

©Yuji Takeuchi

※東急百貨店本店跡地の再開発に伴い、「渋谷の午後のコンサート」は当面の間、週末の開催になります。

### 平日の午後のコンサート 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

5月1日(月)

第29回

指揮とお話:

角田鋼亮

ピアノ:

五十嵐薫子

2022年ジュネーヴ国際音楽コンクール第3位

1回券  
3月発売



©Hikaru Hoshi

©井村重人

7月6日(木)

第30回

指揮とお話:

小林研一郎

ピアノ:

小林亜矢乃

※7月9日「渋谷の午後のコンサート」と一部同演目です。



©山本倫一

©Hiromi Uchida

8月7日(月)

第31回

指揮とお話:

出口大地

ピアノ:

清水和音



©hiro.pberg\_berlin

©Mana Miki

11月6日(月)

第32回

指揮とお話:

円光寺雅彦

ピアノ:

清塚信也

※11月5日「渋谷の午後のコンサート」と同演目です。



©三浦興一

©Yuji Takeuchi



**休日の午後のコンサート** 会場:東京オペラシティ コンサートホール 開演14:00(託児可)

**4月15日(土)**

第96回

指揮とお話:  
和田一樹

サクソフォン:  
上野耕平

1回券  
3月発売



©RINZO

**6月11日(日)**

第97回

指揮とお話:  
出口大地

ヴァイオリン:  
松田理奈

1回券  
3月発売



©hiro.pberg\_berlin

©Akira Muto

**9月3日(日)**

第98回

指揮とお話:  
小林研一郎

ピアノ:  
小林亜矢乃



©上野隆文 ©Hiromi Uchida

**12月3日(日)**

第99回

指揮とお話:  
円光寺雅彦

ヴァイオリン:  
廣津留すみれ



©K.Miura ©Ryuto Kurokawa

曲目等詳細は東京フィルウェブサイトまたは別途配布するご案内をご覧ください。

**午後のコンサート。 2023シーズンの発売スケジュールについて**

**◆4回セット券**

好評発売中

**◆4月・5月・6月公演1回券の発売スケジュール**

|                        |                             |
|------------------------|-----------------------------|
| 最優先※お電話のみ(賛助会員様、定期会員様) | 発売中                         |
| 優先※お電話のみ(東京フィルフレンズ会員様) | 3/11(土)10:00                |
| 優先(WEB優先発売)            | 3/11(土)10:00~3/21(火・祝)23:59 |
| 一般発売                   | 3/22(水)10:00                |

| チケット料金        | S席      | A席      | B席      | C席     |
|---------------|---------|---------|---------|--------|
| 4回セット券(定価)    | ¥20,520 | ¥16,560 | ¥11,160 | ¥8,400 |
| (東京フィルフレンズ会員) | ¥18,468 | ¥14,904 | ¥10,044 | ¥7,560 |
| 1回券(定価)       | ¥5,700  | ¥4,600  | ¥3,100  | ¥2,100 |
| (東京フィルフレンズ会員) | ¥5,130  | ¥4,140  | ¥2,790  | ¥1,890 |

※1回券は4回セット券の販売後、残席ある場合のみ販売いたします。

すでに残席が少ないシリーズやセット券で完売している席種もございます。詳しくはお問合せください。

お問合せ・お申込み 東京フィルチケットサービス

03-5353-9522 (平日10時~18時/土日祝休 発売日の土日祝のみ10時~16時で営業)

東京フィルWEBチケットサービス <https://www.tpo.or.jp/>



## Photo Reports 2023年2月の演奏会より

2月定期演奏会には特別客演指揮者ミハイル・ブレトニョフが登場。昨年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクールに史上最年少優勝を果たし世界的に高い人気を獲得しつつある新星ピアニスト、イム・ユンチャンを迎えて3公演を開催しました。

写真=Takashi Fujimoto(2/22)/上野隆文(2/24・26)/K. Miura(2/3)

### 2月定期演奏会(2/22、24、26)

指揮：ミハイル・ブレトニョフ(特別客演指揮者)

ピアノ：イム・ユンチャン\* (2022年ヴァン・クライバーン国際ピアノコンクール優勝)

コンサートマスター：依田真宣

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲第5番『皇帝』\*

【ソリスト・アンコール】J.S.バッハ(マイラ・ヘス編)／主よ、人の望みの喜びよ(2/22、24)、同／チェンバロ協奏曲第5番より第2楽章(2/24)、ベートーヴェン／7つのバガテル第1番 Op.33-1(2/26)

チャイコフスキー／マンフレッド交響曲



特別客演指揮者ミハイル・ブレトニョフの指揮のもと熱い演奏を繰り広げたイム・ユンチャン。オーケストラとのコミュニケーションも見どころとなりました(2/22)



今回が日本のオーケストラとの初共演となる18歳の俊英イム・ユンチャン。海外からのお客様も数多く来場され、巨匠と俊英の共演に熱い視線を注ぎました(2/24)



後半プログラムはチャイコフスキー「マンフレッド交響曲」。「魔術師」とも称されるプレトニョフのタクトでパイロンの劇詩『マンフレッド』の世界が描きだされました (2/24)



チャイコフスキー「マンフレッド交響曲」は終楽章にオルガンが組み込まれた改訂版を使用 (2/24)

#### 響きの森クラシック 小ホール特別編〈第4回〉(2/3)文京シビックホール 小ホール

出演：東京フィルハーモニー交響楽団メンバーによるホルンアンサンブル(高橋臣宜、齋藤雄介、磯部保彦、大東 周、木村俊介、田場英子、塚田 聡、豊田万紀、山内研自、山本友宏)

ガブリエリ／第7旋法による8声のカンツォン第2番

プッチーニ(大橋晃一編)／歌劇『トゥーランドット』セレクション 他



リニューアルオープンした文京シビックホール小ホールは満席御礼。東京フィルのホルン奏者勢ぞろいでお届けしたホルン十重奏をお楽しみいただきました

## 心に響く音楽体験

——物心ついた時に側にあったのは、  
バロック音楽でした。

ASEAN 歯科医療ネットワーク 代表理事  
和久本 雅彦  
和久本 雅彦



東京フィルのゆかりの方々に、クラシック音楽に魅了されたきっかけや音楽生活について綴っていただく本連載。第14回は、歯科医師として医院経営しつつ、ASEAN地域の歯科医療に携わる和久本雅彦様です。パートナー会員として東京フィルをご支援くださっています。物心ついたときに触れたバロック音楽の思い出を綴ってくださいました。



物心ついた時、父の仕事の関係で、デンマークのコペンハーゲンに住んでいました。父は旅行が好きで、休みのたびに家族で列車の旅をしました。特にウィーンは、足繁く訪れた街の一つでした。当時から好奇心旺盛だった自分は、ベートーヴェンハウスや、シューベルトの生家に展示されていたピアノを触って怒られたりしました。

母は音大の声楽科を卒業し、日本に帰国後は演奏活動をしながら最近まで弟子を取って教えていました。自分が物心ついた時に住んでいた家も、1階がレッスン室や歯科の診療所、2階が自宅という作りでしたので、毎晩布団に入ると枕越しに母が自分で練習する歌が聞こえていたのを覚えています。

そんな家庭でしたので、家にいる時にはほとんど一人で遊んでいました。そんな自分に母が買い与えてくれたのが、簡単なレコードプレイヤーと、もう散逸してしまいましたが、当時どこかの出版社から発売されていた「偉大なクラシック音楽家の生涯」というようなタイトルのシリーズのレコードでした。このレコードは、1965年くら

2022年11月、教え子のクリニックでベトナムホーチミン市の保育園児の検診を行いました。大きな体は子供達に大人気で、終わった後もなかなか離れてくれませんでした



いから発売されたようで、7～8年は続いたでしょうか。ドラマ仕立てて作曲家の生涯をその代表曲を挿入して辿るもので、第1巻が「ヘンデル」次が「バッハ」で、全部で20巻くらいあったと思います。

中でも、自分が好んで聞いていたのは、バッハとヘンデルでした。還暦を過ぎた今でも、断片的ですがこの2枚のレコードの曲や台詞は、時折思い出すほどです。内容が一番残っているのは、ヘンデルです。ドラマの最初のクライマックスである『水上の音楽』が流れるくだりには毎回ドキドキして、ワクワクが止まりませんでした。自分にとってのクラシックはバロック音楽であったと言えます。

自分は「門前の小僧」でピアノを嗜みますが、生まれて初めて弾いたのは、バッハの「メヌエット」でした。和音ではなく、単純な音の繋がりがとても好きでした。ベトナム、ホーチミン市の自分のオフィスの受付には古いアップライトピアノがあり、時々スタッフに内緒で触っています。

32歳の時にご縁をいただいて英国で勤務するようになってからは、ヘンデルの足跡を辿って、墓所のウェストミンスター寺院を始め、ハイマーケット劇場などへ足を運びました。

数年前より、ご縁をいただいて東京フィルハーモニー交響楽団の支援者をさせていただいていますが、東京電機大学時代、音響効果の確認のため、音場計測をさせていただいたサントリーホールに足繁く通える喜びを満喫させていただいています。コロナ前の改修で反射板が新しくなり、金管楽器の響きが一層良くなったように思います。

和久本雅彦(わくもと・まさひこ)

歯科医師の父と、声楽家の母との間に生まれる。歯科医師免許取得後、工学部で音響工学を学ぶ。英国、ドイツ、アメリカ等で勤務後、2007年和久本歯科医院の4代目院長に就任。専門は音響音声学のため、通院される声楽家、楽団員の方も多い。2012年にASEAN歯科医療ネットワークを設立。発展途上国の歯科教育に献身している。

春暖の候、皆様におかれましてはますますご健勝のことと存じます。

今月は首席指揮者バットイストーニの指揮のもと、  
今年生誕140年を迎えるイタリアの作曲家カゼッラの音楽を  
2曲のフランス音楽と共にお届けいたします。  
引き続き、当楽団を何卒よろしくお願い申し上げます。



東京フィルハーモニー交響楽団 理事長 三木谷 浩史

## 賛助会

東京フィルハーモニー交響楽団の活動は、皆様のご寄附により支えていただいております。  
ここに法人ならびに個人賛助会員（パートナー会員）の皆様のご芳名を掲げ、  
改めて御礼申し上げます。

### オフィシャル・サプライヤー（敬称略）

|             |                   |        |
|-------------|-------------------|--------|
| ソニーグループ株式会社 | 代表執行役 会長 兼 社長 CEO | 吉田 憲一郎 |
| 楽天グループ株式会社  | 代表取締役会長兼社長        | 三木谷 浩史 |
| 株式会社マルハン    | 代表取締役 会長          | 韓 昌祐   |
| 株式会社ロッテ     | 代表取締役社長執行役員       | 牛腸 栄一  |
| 株式会社ゆうちょ銀行  | 取締役兼代表執行役社長       | 池田 憲人  |

### 法人会員

#### 賛助会員（五十音順・敬称略）

|                                 |                                 |                                            |
|---------------------------------|---------------------------------|--------------------------------------------|
| (株)IIIH<br>代表取締役社長 井手 博         | (株)インターテキスト<br>代表取締役 海野 裕       | (公財)オリックス宮内財団<br>代表理事 宮内 義彦                |
| (株)アイエムエス<br>取締役会長 前野 武史        | ANAホールディングス(株)<br>代表取締役社長 芝田 浩二 | カシオ計算機(株)<br>代表取締役 社長 CEO 樫尾 和宏            |
| (医)相澤内科医院<br>理事長 相澤 研一          | (株)NHKエンタープライズ<br>代表取締役社長 松本 浩司 | キヤノン(株)<br>代表取締役会長兼社長 CEO 御手洗 富士夫          |
| アイ・システム(株)<br>代表取締役会長 兼 社長 松崎 務 | 大塚化学(株)<br>特別相談役 大塚 雄二郎         | (株)グリーンハウス<br>代表取締役社長 田沼 千秋                |
| (株)アシックス<br>取締役会長 尾山 基          | (株)オーディオテクニカ<br>代表取締役社長 松下 和雄   | コスモエネルギーホールディングス(株)<br>代表取締役社長 社長執行役員 桐山 浩 |



## サントリーホールディングス(株)

代表取締役社長 新浪 剛史

## 信金中央金庫

理事長 柴田 弘之

## 新菱冷熱工業(株)

代表取締役社長 加賀美 猛

## (株)J.Y.PLANNING

代表取締役 遅澤 准

## (株)滋慶

代表取締役社長 田仲 豊徳

## (株)ジーヴァエナジー

代表取締役社長 金田 直己

## 菅波楽器(株)

代表取締役社長 菅波 康郎

## 相互物産(株)

代表取締役会長 小澤 勉

## ソニーグループ(株)

代表執行役 会長 兼 社長 CEO 吉田 憲一郎

## ソニー生命保険(株)

代表取締役社長 萩本 友男

## (株)ソニー・ミュージックエンタテインメント

代表取締役社長CEO 村松 俊亮

## (株)大丸松坂屋百貨店

代表取締役社長 澤田 太郎

## 都築学園グループ

総長 都築 仁子

## 東急(株)

取締役社長 高橋 和夫

## 東京オペラシティビル(株)

代表取締役社長 長島 誠

## 東レ(株)

代表取締役社長 日覺 昭廣

## トッパン・フォームズ(株)

代表取締役社長 添田 秀樹

## トヨタ自動車(株)

代表取締役社長 豊田 章男

## DOWAホールディングス(株)

代表取締役社長 関口 明

## (株)ニチケアパレス

代表取締役社長 秋山 幸男

## (株)ニフコ

代表取締役会長 山本 利行

## 日本ライフライン(株)

代表取締役社長 鈴木 啓介

## (株)パラダイスインターナショナル

代表取締役 新井 秀之

## 富士電機(株)

代表取締役会長 CEO 北澤 通宏

## (株)不二家

代表取締役社長 河村 宣行

## (株)三井住友銀行

頭取CEO 高島 誠

## 三菱地所(株)

執行役社長 吉田 淳一

## 三菱倉庫(株)

相談役 宮崎 毅

## (株)三菱UFJ銀行

特別顧問 小山田 隆

## ミライラボバイオサイエンス(株)

代表取締役 田中 めぐみ

## (株)明治

代表取締役社長 松田 克也

## 森ビル(株)

代表取締役社長 辻 慎吾

## ヤマトホールディングス(株)

代表取締役社長 長尾 裕

## (株)山野楽器

代表取締役社長 山野 政彦

## ユニオンツール(株)

代表取締役会長 片山 貴雄

## (医)ユベンシア

理事長 今西 宏明

## 楽天グループ(株)

代表取締役会長兼社長 三木谷 浩史

## (株)リソー教育

取締役会長 岩佐 実次

## 後援会員

## (株)アグレックス

代表取締役社長 畝森 達朗

## (医)エレル たにぐちファミリークリニック

理事長 谷口 聡

## 欧文印刷(株)

代表取締役社長 和田 美佐雄

## (有)オルテンシア

代表取締役 雨宮 睦美

## (医)カリタス菊山医院

理事長 加藤 徹

## (医)だて内科クリニック

理事長 伊達 太郎

## (宗)東京大仏・乗蓮寺

代表役員 若林 隆壽

## (一社)凸版印刷三幸会

代表理事 金子 眞吾

## (株)トレミール

代表取締役 茶谷 幸司

## (株)日税ビジネスサービス

代表取締役会長兼社長 吉田 雅俊

## 富士通(株)

代表取締役社長 時田 隆仁

## 本田技研工業(株)

取締役 代表執行役社長 三部 敏宏

## 三菱電機(株)

執行役社長 漆間 啓



## ご支援の御礼とお願い

2020年からのコロナ禍において、また昨今の社会情勢において皆様からたくさんの励ましのお言葉とともに、東京フィルに温かいご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は今も社会に大きな影響を及ぼしています。東京フィルもまた、2020年2月下旬から数か月にわたり、出演する演奏会のすべてが中止・延期となりました。その後も感染状況により公演の中止や延期、チケットの販売停止など、さまざまな対応を余儀なくされました。東京フィルの財源は演奏料収入がほとんどを占めるため、演奏会およびチケット収入の壊滅は団体存続の危機に直結いたします。指揮者と楽団員、スタッフはPCR検査や抗原検査を何度も受けて公演に臨んでおり、これらの検査に掛かる費用もまた楽団の財政を圧迫しています。

今後も、当団は、芸術がもたらす感動がどんな時代にも社会を豊かにするとの信念のもと、お客様ならびに関係者の安全と安心を最優先に、状況を注視しながら活動を続けてまいります。皆様のご寄附が大きな力となります。皆様におかれましては、改めて楽団を取り巻く状況についてご理解を賜りますとともに、いっそうのご支援・ご助力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

弊団へのご寄附をいただけます際には、こちらの口座のいずれかにお振込みいただけますと幸いです。個人として1万円以上、法人として30万円以上のご寄附をご検討いただける際は、賛助会（次ページ）も併せてご覧ください。

| 金融機関名                 | 口座番号            | 口座名義                         |
|-----------------------|-----------------|------------------------------|
| ゆうちょ銀行（郵便振替）          | 00120-2-30370   | 公益財団法人<br>東京フィルハーモニー<br>交響楽団 |
| 三井住友銀行・<br>東京公務部（096） | 普通預金<br>3003239 |                              |

※ ご寄附の金額は自由に設定いただけます。

※ 振込手数料、通信費は恐れ入りますがご負担くださいますようお願い申し上げます。

※ 領収証書が必要な方は、お手数ですがお振込後に、別途配布しております「寄附申込書」に必要事項をご記入の上、下記へご送付ください。

寄附申込書はこちらからも取得いただけます。

[https://www.tpo.or.jp/support/img/support\\_TPO.pdf](https://www.tpo.or.jp/support/img/support_TPO.pdf)



### 【ご支援のお問合せ／寄附申込書 送付先】

公益財団法人 東京フィルハーモニー交響楽団・広報渉外部 寄附担当  
〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8階  
Fax 03-5353-9523 Eメール: [partner@tpo.or.jp](mailto:partner@tpo.or.jp)  
Tel 03-5353-9521（土日祝日を除く10時～18時）

## 東京フィル 賛助会 会員募集中

2023年に東京フィルハーモニー交響楽団は創立112年を迎えます。

これまでの歩みは、東京フィルとその音楽を愛する皆様の日頃からの大きなご支援とご助力なしには実現しえないものでした。心より御礼申し上げます。

東京フィルは1月をシーズンのスタートに据え、年間を通じて皆様の暮らしに音楽をお届けしてまいりました。国際的に活躍する音楽家や将来を嘱望される若い演奏家を招いての定期演奏会や「午後のコンサート」シリーズ、「第九」「ニューイヤーコンサート」などの特別演奏会や提携都市公演、学校や公共施設での音楽活動を通じ、今後も社会に広くオーケストラの価値を認知いただけるよう活動を続けてまいります。この活動を通じて、日本の芸術文化の発展に寄与し、今後ますます多様化・複雑化するグローバル社会において不可欠な心の豊かさ・寛容さを育み、次世代へと続く文化交流の懸け橋となるよう、より一層努めてまいります。

ぜひとも皆様方からの継続的なご支援を賜りますよう、謹んでお願い申し上げます。

東京フィルハーモニー交響楽団

## 賛助会(法人／パートナー(個人))会員の種別

| 種別            |             | 年会費1口          |
|---------------|-------------|----------------|
| オフィシャル・サプライヤー |             | 詳細はお問い合わせください。 |
| 法人会員          | 賛助会員        | 50万円           |
|               | 後援会員        | 30万円           |
|               | ワンハンドレッドクラブ | 100万円          |
|               | フィルハーモニー    | 50万円           |
| パートナー会員       | シンフォニー      | 30万円           |
|               | コンチェルト      | 10万円           |
|               | ラプソディ       | 5万円            |
|               | インテルメッツォ    | 3万円            |
|               | プレリュード      | 1万円            |

※東京フィルハーモニー交響楽団は内閣府により「公益財団法人」に認定されており、ご寄附の金額に応じて税法上の優遇措置を受けることができます。  
その他特典、お申込みや資料請求など、詳しくは東京フィル広報渉外部担当へお問合せください。

寄附をご検討くださいます際には、主催公演会場「主催者カウンター」または東京フィル担当(partner@tpo.or.jp)までお尋ねください。資料をお送りいたします。ご入会後は、1年ごとに継続のご案内をお送りいたします。

## 【賛助会に関するお問合せ・お申込み】

東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部 (担当: 星野<sup>かのまた</sup>・鹿丈)

電話: 03-5353-9521 (平日10時～18時) Eメール: partner@tpo.or.jp

皆様のご寄附は東京フィルの様々な活動を支えています。

## フランチャイズ・ホール、事業提携都市との連携

東京フィルは、フランチャイズ・ホールであるBunkamuraオーチャードホール等での定期演奏会の他、東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市の各地域と事業提携を結び、定期演奏会、親子のためのコンサートや中高生などへの楽器ワークショップ等、地域の皆様との交流を通じ音楽の魅力をお届けしています。

## 文化庁「文化芸術による子供育成推進事業 巡回公演事業」

文化庁が主催する本事業として、日本全国の小中学校や特別支援学校を訪問し、一流の文化芸術団体による巡回公演を行っています。東京フィルは国内オーケストラでは唯一、文化庁から8年間の長期採択を受け(2014～2021年度)、東日本大震災地域を含む北海道・東北地区の小中学校115校、のべ46,279名の児童・生徒、地域の皆様と交流を行い、さらに2019年度からは、これに加え、関東・東海・中国地区の小中学校61校のべ20,389名の児童・生徒に音楽をお届けしました。



小学校体育館でのオーケストラ本公演

2022(令和4)年度からは、「文化芸術による子供育成推進事業」と事業名が変更となり、東京フィルは中国地区の担当として新たに長期採択(2022～2024年度)を受けました。今年度は5月から12月にかけて、小中学校14校を訪問し、ワークショップとオーケストラ公演を開催しました。P25のご報告もあわせてご覧ください。

## 留学生の演奏会ご招待… 留学生招待シート

東京フィルでは国際交流事業の一環として、海外からの留学生や研修員の方々を定期演奏会へご招待する「留学生招待シート」を設けており、皆様からご寄附いただいたチケットも有効に活用させていただきます。詳しくは東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)までお問合せください。



定期演奏会に來場のJICA東京研修生の皆様とチョン・ミョンファン(2019年7月東京オペラシティ定期)

©上野隆文

## “とどけ心に”特別招待シート

東京フィルでは2011年の東日本大震災をきっかけに、自然災害などやむを得ない事情により国や地域を問わず故郷から避難されているかたがたを当団の主催公演にご招待する取り組みを行っています。招待をご希望の方は、東京フィルチケットサービス(03-5353-9522)まで、支援団体として東京フィルの演奏会を活用したいという場合は、東京フィル事務局(03-5353-9521)広報渉外部担当までご相談ください。

## ご来場いただけなくなった定期演奏会チケットのご寄附について

東京フィルでは、ご購入いただきながらご来場いただけなくなった定期演奏会のチケットをご寄附いただき「留学生招待シート」「とどけ心に”特別招待シート”」として活用させていただいております。お手元にご来場いただけない公演チケットがございましたら、ぜひ東京フィルへご寄附ください。大切に使用させていただきます。

### 【お問合せ・お申込み】東京フィルチケットサービス

電話：03-5353-9522(10時～18時／土日祝休)

2月の演奏会のチケットのご寄附をいただきました。心より御礼申し上げます。

八馬 しげ子、村田 浩一、M.A (ほか匿名希望6名)

(五十音順・敬称略)

## 特別公演、公演協賛、広告のご案内

東京フィルハーモニー交響楽団は、様々な音楽活動を通して、企業様の大切な節目である周年記念事業や式典、福利厚生イベント等でご活用いただけるオンラインワンの特別企画を展開しております。

- 商品のプロモーションとして何か施策を考えたい
- 社内向けイベントで室内楽の演奏を企画したい
- 東京フィルの公演プログラムに広告を掲載したい
- 新製品、サンプルを会場で販売・配布したい

どうぞお気軽にご用命ください。

【広告・協賛のお問合せ】東京フィルハーモニー交響楽団 広報渉外部

電話：03-5353-9521(平日10時～18時) Eメール：partner@tpo.or.jp



日中国交正常化45周年記念上海公演後のレセプションにて

# 東京フィルハーモニー交響楽団 1911年創立 楽団員

Tokyo Philharmonic Orchestra Since 1911 / Musicians

名誉音楽監督  
Honorary Music Director

チョン・ヨンフン  
Myung-Whun Chung

首席指揮者  
Chief Conductor

アンドレア・バッティストーニ  
Andrea Battistoni

桂冠指揮者  
Conductor Laureate

尾高 忠明  
Tadaaki Otaka

大野 和土  
Kazushi Ono

ダン・エッティンガー  
Dan Ettinger

特別客演指揮者  
Special Guest Conductor

ミハイル・プレトニョフ  
Mikhail Pletnev

アソシエイト・コンダクター  
Associate Conductor

チョン・ミン  
Min Chung

永久名誉指揮者  
Permanent Honorary Conductor

山田 一雄  
Kazuo Yamada

永久楽友・名誉指揮者  
Permanent Member and  
Honorary Conductor

大賀 典雄  
Norio Ohga

コンサートマスター  
Concertmasters

近藤 薫  
Kaoru Kondo

三浦 章宏  
Akihiro Miura

依田 真宜  
Masanobu Yoda

第1ヴァイオリン  
First Violins

小池 彩織☆  
Saori Koike

榊原 菜若☆  
Namo Sakakibara

坪井 夏美☆  
Natsumi Tsuboi

平塚 佳子☆  
Yoshiko Hiratsuka

浅見 善之  
Yoshiyuki Asami

浦田 絵里  
Eri Urata

景澤 恵子  
Keiko Kagesawa

加藤 光  
Hikaru Kato

巖築 朋美  
Tomomi Iwashiki

坂口 正明  
Masaaki Sakaguchi

鈴木 左久  
Saku Suzuki

高田 あきの  
Akino Takada

田中 秀子  
Hideko Tanaka

栃本 三津子  
Mitsuko Tochimoto

中澤 美紀  
Miki Nakazawa

中丸 洋子  
Hiroko Nakamaru

廣澤 育美  
Ikumi Hirotsawa

弘田 聡子  
Satoko Hirota

藤瀬 実沙子  
Misako Fujise

松田 朋子  
Tomoko Matsuda

第2ヴァイオリン  
Second Violins

戸上 真里◎  
Mari Togami

藤村 政芳◎  
Masayoshi Fujimura

水島 路◎  
Michi Mizutori

宮川 正雪◎  
Masayuki Miyakawa

小島 愛子☆  
Aiko Kojima

高瀬 真由子☆  
Mayuko Takase

石原 千草  
Chigusa Ishihara

出原 麻智子  
Machiko Idehara

太田 慶  
Kei Ota

葛西 理恵  
Rie Kasai

佐藤 実江子  
Mieko Sato

二宮 祐子  
Yuko Ninomiya

本堂 祐香  
Yuuka Hondo

山代 裕子  
Yuko Yamashiro

吉田 智子  
Tomoko Yoshida

吉永 安希子  
Akiko Yoshinaga

若井 須和子  
Suwako Wakai

渡邊 みな子  
Minako Watanabe

ヴィオラ  
Violas

須田 祥子◎  
Sachiko Suda

須藤 三千代◎  
Michio Suto

高平 純◎  
Jun Takahira

加藤 大輔◎  
Daisuke Kato

今川 結☆  
Yui Imagawa

杉浦 文☆  
Aya Sugiura

伊藤 千絵  
Chie Ito

岡保 文子  
Ayako Okayasu

曾和 万里子  
Mariko Sowa

高橋 映子  
Eiko Takahashi

手塚 貴子  
Takako Tezuka

中嶋 圭輔  
Keisuke Nakajima

蛭海 たづ子  
Tazuko Hirumi

古野 敦子  
Atsuko Furuno

村上 直子  
Naoko Murakami

森田 正治  
Masaharu Morita

| チェロ<br>Cellos              | コントラバス<br>Contrabasses      | オーボエ<br>Oboes                             | ホルン<br>Horns                 | トロンボーン<br>Trombones                        | ハープ<br>Harps                 |
|----------------------------|-----------------------------|-------------------------------------------|------------------------------|--------------------------------------------|------------------------------|
| 金木 博幸◎<br>Hiroyuki Kanaki  | 片岡 夢児◎<br>Yumeji Kataoka    | 荒川 文吉◎<br>Bunkichi Arakawa                | 齋藤 雄介◎<br>Yusuke Saito       | 五箇 正明◎<br>Masaaki Goka                     | 梶 彩乃<br>Ayano Kaji           |
| 服部 誠◎<br>Makoto Hattori    | 黒木 岩寿◎<br>Iwahisa Kuroki    | 加瀬 孝宏◎<br>Takahiro Kase                   | 高橋 臣宜◎<br>Takanori Takahashi | 中西 和泉◎<br>Izumi Nakanishi                  | 田島 緑<br>Midori Tajima        |
| 渡邊 辰紀◎<br>Tatsuki Watanabe | 遠藤 柁一郎<br>Shuichi Endo      | 佐竹 正史◎<br>Masashi Satake                  | 磯部 保彦<br>Yasuhiko Isobe      | 辻 姫子○<br>Himeko Tsuji                      | ライブラリアン<br>Librarians        |
| 黒川 実咲☆<br>Misaki Kurokawa  | 小笠原 茅乃<br>Kayano Ogasawara  | 杉本 真木<br>Maki Sugimoto                    | 大東 周<br>Shu Ohigashi         | 石川 浩<br>Hiroschi Ishikawa                  | 武田 基樹<br>Motoki Takeda       |
| 高麗 正史☆<br>Masashi Korai    | 岡本 義輝<br>Yoshiteru Okamoto  | 若林 沙弥香<br>Sayaka Wakabayashi              | 木村 俊介<br>Shunsuke Kimura     | 平田 慎<br>Shin Hirata                        |                              |
| 広田 勇樹☆<br>Yuki Hirota      | 小栗 亮太<br>Ryota Oguri        |                                           | 田場 英子<br>Eiko Taba           | 山内 正博<br>Masahiro Yamauchi                 | ステージマネージャー<br>Stage Managers |
| 石川 剛<br>Go Ishikawa        | 熊谷 麻弥<br>Maya Kumagai       | クラリネット<br>Clarinets                       | 塚田 聡<br>Satoshi Tsukada      |                                            |                              |
| 大内 麻央<br>Mao Ouchi         | 菅原 政彦<br>Masahiko Sugawara  | チョ・スンホ◎<br>Sungcho Cho                    | 豊田 万紀<br>Maki Toyoda         | チューバ<br>Tubas                              | 稲岡 宏司<br>Hiroshi Inaoka      |
| 太田 徹<br>Tetsu Ota          | 田邊 朋美<br>Tomomi Tanabe      | アレッサンドロ・<br>ベヴェラリ◎<br>Alessandro Beverari | 山内 研自<br>Kenji Yamanouchi    | 大塚 哲也<br>Tetsuya Otsuka                    | 大田 淳志<br>Atsushi Ota         |
| 菊池 武英<br>Takehide Kikuchi  | 中村 元優<br>Motomasa Nakamura  | 万行 千秋◎<br>Chiaki Mangyo                   | 山本 友宏<br>Tomohiro Yamamoto   | 荻野 晋<br>Shin Ogino                         | 古谷 寛<br>Hiroshi Furuya       |
| 佐々木 良伸<br>Yoshinobu Sasaki |                             | 黒尾 文恵<br>Fumie Kuroo                      |                              |                                            |                              |
| 長谷川 陽子<br>Yoko Hasegawa    | フルート<br>Flutes              | 林 直樹<br>Naoki Hayashi                     | トランペット<br>Trumpets           | ティンパニー&<br>パーカッション<br>Timpani & Percussion |                              |
| 渡邊 文月<br>Fuzuki Watanabe   | 神田 勇哉◎<br>Yuya Kanda        |                                           | 川田 修一◎<br>Shuichi Kawata     | 岡部 亮登◎<br>Ryoto Okabe                      |                              |
|                            | 斉藤 和志◎<br>Kazushi Saito     | ファゴット<br>Bassoons                         | 野田 亮◎<br>Ryo Noda            | 塩田 拓郎◎<br>Takuro Shiota                    |                              |
|                            | 吉岡 アカリ◎<br>Akari Yoshioka   | チェ・ヨンジン◎<br>Young-Jin Choe                | 古田 俊博◎<br>Toshihiro Furuta   | 木村 達志<br>Tatsushi Kimura                   |                              |
|                            | さかはし 矢波<br>Yanami Sakahashi | 廣幡 敦子◎<br>Atsuko Hirohata                 | 杉山 眞彦<br>Masahiko Sugiyama   | 鷹羽 香緒里<br>Kaori Takaba                     |                              |
|                            | 下払 桐子<br>Kiriko Shimobara   | 井村 裕美<br>Hiromi Imura                     | 前田 寛人<br>Hirohito Maeda      | 中村 勇輝<br>Yuki Nakamura                     |                              |
|                            |                             | 桔川 由美<br>Yumi Kikkawa                     |                              | 縄田 喜久子<br>Kikuko Nawata                    |                              |
|                            |                             | 森 純一<br>Junichi Mori                      |                              | 船迫 優子<br>Yuko Funasako                     |                              |
|                            |                             |                                           |                              | 古谷 はるみ<br>Harumi Furuya                    |                              |

◎首席奏者  
Principal○副首席奏者  
Assistant Principal☆ファオアシューラー  
Vorspieler

## 東京フィルハーモニー交響楽団

1911年創立。日本で最も長い歴史をもつオーケストラ。メンバー約160名、シンフォニーオーケストラと劇場オーケストラの両機能を併せもつ。名誉音楽監督にチョン・ミョンフン、首席指揮者アンドレア・バットィストーニ、特別客演指揮者にミハイル・プレトニョフを擁する。Bunkamuraオーチャードホール、東京オペラシティ コンサートホール、サントリーホールでの定期演奏会や「渋谷／平日／休日の午後のコンサート」等の自主公演、新国立劇場等でのオペラ・バレエ演奏、『名曲アルバム』『NHKニューイヤーオペラコンサート』『題名のない音楽会』『東急ジルバスターコンサート』『NHK紅白歌合戦』『いないいないばあ!』などの放送演奏により、全国の音楽ファンに親しまれる存在として高水準の演奏活動と様々な教育的活動を展開している。海外公演も積極的に行い、国内外から高い評価と注目を集めている。2020～21年のコロナ禍における取り組みはMBS『情熱大陸』、NHK BS1『BS1スペシャル 必ずよみがえる～魂のオーケストラ 1年半の闘い～』などのドキュメンタリー番組で取り上げられた。

1989年よりBunkamuraオーチャードホールとフランチャイズ契約を結んでいる。東京都文京区、千葉県千葉市、長野県軽井沢町、新潟県長岡市と事業提携を結び、各地域との教育的、創造的な文化交流を行っている。

## Tokyo Philharmonic Orchestra

In 2023, the Tokyo Philharmonic Orchestra celebrates its 112th anniversary as Japan's first symphony orchestra. With about 160 musicians, TPO performs both symphonies and operas regularly. TPO is proud to have appointed Maestro Myung-Whun Chung, who has been conducting TPO since 2001, as Honorary Music Director, Maestro Andrea Battistoni as Chief Conductor and Maestro Mikhail Pletnev as Special Guest Conductor.

TPO has established its world-class reputation through its subscription concert series, regular opera and ballet assignments at the New National Theatre, and a full, ever in-demand agenda around Japan and the world, including broadcasting with NHK Broadcasting Corporation, various educational programs, and tours abroad.

TPO has partnerships with Bunkamura Orchard Hall, the Bunkyo Ward in Tokyo, Chiba City, Karuizawa Cho in Nagano and Nagaoka City in Niigata.

Official Website / SNS <https://www.tpo.or.jp/>



©上野隆文



## 役員等・事務局・団友

## 役員等(理事・監事および評議員)

| 理事長    | 理事     | 監事    | 評議員    |
|--------|--------|-------|--------|
| 三木谷 浩史 | 浮舟 邦彦  | 岩崎 守康 | 伊東 信一郎 |
|        | 大賀 昭雄  | 山野 政彦 | 海老澤 敏  |
| 副理事長   | 大塚 雄二郎 |       | 佐治 信忠  |
| 黒柳 徹子  | 小山田 隆  |       | 鈴木 勲   |
| 専務理事   | 篠澤 恭助  |       | 鈴木 啓介  |
| 石丸 恭一  | 田沼 千秋  |       | 瀬谷 博道  |
|        | 寺田 琢   |       | 日枝 久   |
| 常務理事   | 遠山 敦子  |       |        |
| 工藤 真実  | 野本 弘文  |       |        |
|        | 韓 昌祐   |       |        |
|        | 平井 康文  |       |        |
|        | 宮内 義彦  |       |        |

## 事務局

| 楽団長   | 公演事業部  | ステージマネージャー | ライブラリアン | 広報渉外部  | 総務・経理 |
|-------|--------|------------|---------|--------|-------|
| 石丸 恭一 | 市川 悠一  | 稲岡 宏司      | 武田 基樹   | 伊藤 唯   | 川原 明夫 |
|       | 岩崎 井織  | 大田 淳志      |         | 鹿又 紀乃  | 鈴木 美絵 |
| 事務局長  | 大久保 里香 | 古谷 寛       |         | 千木 加寿子 |       |
| 工藤 真実 | 大谷 絵梨奈 |            |         | 二木 憲史  |       |
|       | 佐藤 若菜  |            |         | 星野 友子  |       |
|       | 村尾 真希子 |            |         | 松井 ひさえ |       |
|       |        |            |         | 安田 ひとみ |       |

## 団友

|        |        |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 安藤 栄作  | 大和田 皓  | 河野 啓子  | 清水 真佐子 | 長池 陽次郎 | 古野 淳   |
| 池田 敏美  | 岡部 純   | 近藤 勉   | 瀬尾 勝保  | 長岡 慎   | 細川 克己  |
| 糸井 正博  | 小樽 敦子  | 今野 芳雄  | 高岩 紀子  | 長倉 穰司  | 細洞 寛   |
| 今井 彰   | 小山 智子  | 齊藤 匠   | 高野 和彦  | 新田 清枝  | 本田 詩子  |
| 井料 和彦  | 甲斐沢 俊昭 | 坂口 和子  | 高村 千代子 | 新田 伸雄  | 松澤 久美子 |
| 岩崎 龍彦  | 加藤 明広  | 嵯峨 正雄  | 竹林 良   | 二宮 純   | 湊 貞男   |
| 植木 佳奈  | 加藤 博文  | 嵯峨 美穂子 | 竹林 陽子  | 野仲 啓之助 | 宮原 真弓  |
| 上野 眞行  | 金崎 真由美 | 桜木 弘子  | 田中 千枝  | 畑中 和子  | 山屋 房子  |
| 生方 正好  | 川人 洋二  | 笹 翠    | 田村 武雄  | 玻名城 昌子 | 吉田 啓義  |
| 大兼久 輝宴 | 木村 友博  | 佐々木 等  | 津田 好美  | 福村 忠雄  | 米倉 浩喜  |
| 大澤 昌生  | 黒川 正三  | 佐野 恭一  | 戸坂 恭毅  | 藤原 勲   | 脇屋 俊介  |

〈発行日〉2023(令和5)年3月9日 〈発行人〉石丸 恭一

〈発行所〉東京フィルハーモニー交響楽団

〒163-1408 東京都新宿区西新宿3-20-2 東京オペラシティタワー8F Tel 03-5353-9521 Fax 03-5353-9523

フランチャイズ・ホール: Bunkamuraオーチャードホール 提携: 千葉市 文京区 軽井沢町 長岡市

〈デザイン〉米田デザイン事務所 〈表紙画〉ハラダチエ 〈編集協力〉ひとま舎

〈印刷〉歐文印刷株式会社

©Tokyo Philharmonic Orchestra \*無断転載を禁ず(非売品)

## 演奏会場の感染対策について

演奏会の開催にあたり、リハーサルから本番に至るまで、お客様、出演者、スタッフ等、すべての関係者の安全と健康を最優先に、日本国政府・東京都および関係団体から発表された新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドラインに従い、舞台上・舞台裏・楽屋・客席ロビーなどにおける対策を講じております。引き続いての感染症予防のご協力をお願い申し上げます。

写真＝三浦興一／上野隆文

### 客席・ロビーの対策について



入場前の手指消毒、常時マスク着用、間をあけての整列をお願いいたします



入場の際に、非接触式体温計等での検温を行っています



Face Masks  
Required



Physical  
Distancing



Sanitizing  
Stations



Frequent Cleaning  
and Disinfecting



Improved Indoor  
Ventilation

会場では常時マスクの着用をお願いいたします。

ロビーや客席内での会話はお控えください。

ロビー等ではお客様同士の間隔を十分におとりください。

頻回の手指消毒をお願いいたします。

場内はスタッフが消毒・清拭を行っております。

客席内は十分な換気を行っております。

ご協力まことにありがとうございます

Tokyo Philharmonic Orchestra  
Season 2023



こころの時間